

農業後継者問題に関する考察

—大阪府高槻市の事例を中心に—

A Study on the Problem of Farm Successors:
the case of Takatsuki city, Osaka, Japan

コース 社会学

学生氏名 尾崎 元哉

指導教員 小林 和美

キーワード (和文) 農業後継者 農業者の定着 高槻市
キーワード (英文) (Farm Successor) (Settling down of Farming) (Takatsuki city)

本論文は、農業後継者問題に関する全国的な動向を踏まえて、大阪府高槻市を事例に、農業後継者問題について関連統計および農業者へのインタビュー調査を通して検討し、日本の農業を存続させていくために、どのようにすれば農業後継者を確保できるのかということをも明らかにするものである。

本論文の具体的な分析課題は以下の3つである。第1は、農業後継者の確保に必要な条件を明らかにすることである。第2は、就農後の定着に必要な条件を明らかにすることである。近年の農業後継者問題においては、農業者が就農後に農業から退出してしまうという問題が増加してきているが、就農後の定着にまで目を向けた研究はまだ少なく、十分に研究が進んでいるとはいえない。そこで、本論文では、その部分にまで視野を広げて農業後継者問題について分析している。第3は、今まで農業後継者の研究が進んでこなかった都市的開発が進んでいる地域において、どのようにすれば農業後継者を確保することができるのかを明らかにすることである。

分析の結果、農業後継者の確保に必要な条件としては、①消費者と親密な関係を持つことが可能な農業経営を行うこと、②近隣住民と良好な関係を築いておくこと、③農業においてより良い収入を得ることができるという状況を整え、その情報を拡大すること、の3つを明らかにした。就農後の定着に必要な条件としては、①同業者の集まりに参加すること、②直売などを行う農家が集中している場所で農業を行うこと、③同世代の相談相手と話すことができる機会を確保すること、④近隣住民や近隣農家との関係を良好にすること、の4つを明らかにした。①②は農業経営の安定に関する問題であり、③④は人間関係の問題であるといえる。このことから、就農後の定着には、農業経営だけではなく、人間関係の面での支援や取り組みも必要であることがわかった。また、高槻市では、農業に意欲的ではない農家が多く、補助金を削減すると農業から退出してしまう農家が増加し、意欲的な農家の農地が孤立してしまう可能性が高いことがわかった。